



三先小学校



ジェーン台風の時の夕田付近の様子(昭和25年9月)(山田昌次さん撮影・提供)

今年11月、三先小学校は創立80周年を迎えます。昭和5(1930)年の開校後、何度も大きな台風の被害を受けています。今回は、親子2代、3代続けて三先小学校に通われている「三先っ子」の竹田幸子さん、片山教さん、鳥取泰治朗さんにお話をうかがいました。

竹田さんは昭和23(1948)年に入学されました。「3年生のときにジ

ェーン台風が来ました。当時は平屋建ての家が多く、1階の全部がつかの高さまで水が来たため、みんなランドセルや教科書などが使えなくなりました。教科書も揃わない中で、先生は授業を進めるのに苦労されていました。水がひくまで約1ヵ月かかりました。水につかった校舎は使えなくなり、校庭や校舎の1階は埋め立てられました」

昭和42(1967)年に入学された鳥取さんは、「理由は知らなかったけれど、見るからに中途半端な位置に入り口があって、2階を1階、3階を2階に使っていました」と、この校舎の思い出を語られました。この校舎は昭和50年代半ばまで使われていました。



同窓会長 片山教さん

同窓会長の片山さんは昭和34(1959)年に入学され、3年生のときに第2室戸台風を経験されています。「学校が休校になり、自宅のお手洗いから外を見ていると、海の方から水が押し寄せてきました。マンホールが浮き上がり噴水のように水が出てきて、あっという間に2メートルの高さまでの浸水になり、屋根裏に逃げました。怖かったで

す。台風の被害で学校の卒業生名簿も水につかってしまい、それ以前の同窓生の連絡先はほとんどわからなくなっていますが、5年に1度の小学校の同窓会は、奈良や九州からも卒業生が集まり、二次会も学校を会場に行っています。台風以外には運動会の思い出があります。夏休み明けからはじまる連日の練習は厳しいものでしたが、本番が終わった後はいつも充実感を感じていました」



昭和30年代末頃の運動会(片山教さん提供)